



# 小学校だより

2019年  
1学期号  
2019.07.16

Vol.  
142

実習生のみなさん、  
こんにちは！

校長 森 和久

本校では、毎年一学期と二学期に柏山女学園大学教育学部の教育実習生を迎えてます。今年の一学期は十二人の実習生が来て、三年生以上の各学級に入っています。（一、二年生の学級には二学期に入ります。）この教育実習は、教員を目指す大学生の学修の一環ですが、学校にとってもよいものだと思っております。

まず、子どもにとつて、人とのふれ合いのよい機会となります。子どもたちに実習生が来ることについて感想を聞いてみると「実習生が来るのはうれしい」「話し相手になってくれる」「遊んでくれる」とのこと



▲笑顔で朝の挨拶活動



▲緊張の研究授業



▲元気いっぱい放課後の遊び



▲笑いと涙のお別れ会

## 特集 上級生と下級生

委員会報告

P4

学年トピックス

P6

P17

学期の行事

P5

PTA

P18

P19

一学期の思い出

P20

負担は増えますが、「人を教える」ということは自分にとってもよい学びになります。そして、実習生の視点を通して自分の指導を振り返る機会にもなると考えています。本校は、教員一人一人の教育研究を進めるため、年間一人一回は教師間での公開授業を行なっています。それを教育実習の「示範授業」と兼ねて行なう教員も多く、実習生という多くの観察者を活用しながら自身の教育研究を進めることができます。

最後に実習生にインタビューしたことを紹介します。

- Q 教育実習で楽しいことは？**
- ・子どもとドッジボールをすること
- ・給食のときの子どもとの会話
- ・朝の挨拶活動で、子どもと触れあうこと

**Q 柏小の子どもたちの印象は？**

- ・フレンドリー、純粋、礼儀正しい、真面目、元気、好奇心旺盛

**Q 教師をする上で大切だと思ったことは？**

- ・全体を見る力
- ・一人一人の子どものそのときどきの状況を見極める力
- ・よい悪いの線引きをはつきりすること
- ・発問の仕方

また、教員にとってもよい刺激になつていると考えます。実習生の指導は、普段の子どもへの指導に加えて行わなければならぬので、

この学校では、数年に一度、一部の学級に来るだけで、滅多に実習生に巡り会うことはありませんが、教育学部のある大学の附属校ならではのよさではないかと思います。

また、教員にとってもよい刺激になつていると考えます。実習生の指導は、普段の子どもへの指導に加えて行わなければならぬので、